

平成二十七年二月一日発行(毎月一回一日)
書 象 第六十三卷 第二号 通卷七二一号

書 象



日本書道芸術協会

2015-2

巻頭言

謙慎書道会展に向けて

副理事長 内藤 望山

謙慎書道会展は年の初めに作品提出となる展覧会である。書道界の登龍門となる大変重要な書展で、書象会からは昨年度四二〇点が出品されている。今回は二度の添削会が終り、後は作品提出まで各指導者のもとでの研鑽となる。

私自身この謙慎書道会展はもう五十年以上も毎年欠かさずに出品している。書道を長く続けてこれたのは書的環境に恵まれたからである。学生時代、上條信山先生のお宅のすぐ近くのアパートに住み、その先輩や親友と書を通して深くお付き合いさせていた為である。

書の学習はすべて自分一人で行う精神的活動である。それだけに独善的になったりマンネリ化する。私の場合はすぐ隣の先輩を尋ね解決していたが、一般的にはそうはいかない。外からの刺激や感動を求め、自らを高めるように行動しなければ進歩は望めないと思う。同僚や先輩の作品を観て表現の素晴らしさを発見し、自分の短所欠点を自覚して改善に努力する。

いよいよ最終段階が迫ってきた。残された日々「線表現の強い作品」を目指してほしい。線質を強くすればするほど文字が前面に押し出され、強い迫力となつて観る人に強く訴えるのである。一点一画を強靱な筆力、重厚な深さを示すことが大切で、早書きは最も慎むべきである。また最近では濃墨作品が多い。濃墨は潤筆・渴筆の変化を生かし、力強い表現が期待される。

本展は古典臨書作品が認められている。学んでいる古典そのものの臨書作品が出品できるので有難い。また本展は古典を重視する書展であり、古典に準拠したもの、古典の香り高いものほど評価されるので、そうした作品造りが望ましい。

図版は第三十四回展に出品された上條信山先生作品である。七行一二〇字は張猛龍碑の筆意で貫かれていて極めて強靱で熾烈な表現である。どの短い画も収筆の末端まで先生の意志が完璧に行き届いていて生命感が響き合っている。緊張感と品位に満ちていて、このような書格の高い作品を出品したいものである。



第34回謙慎書道会展 上條信山先生作品



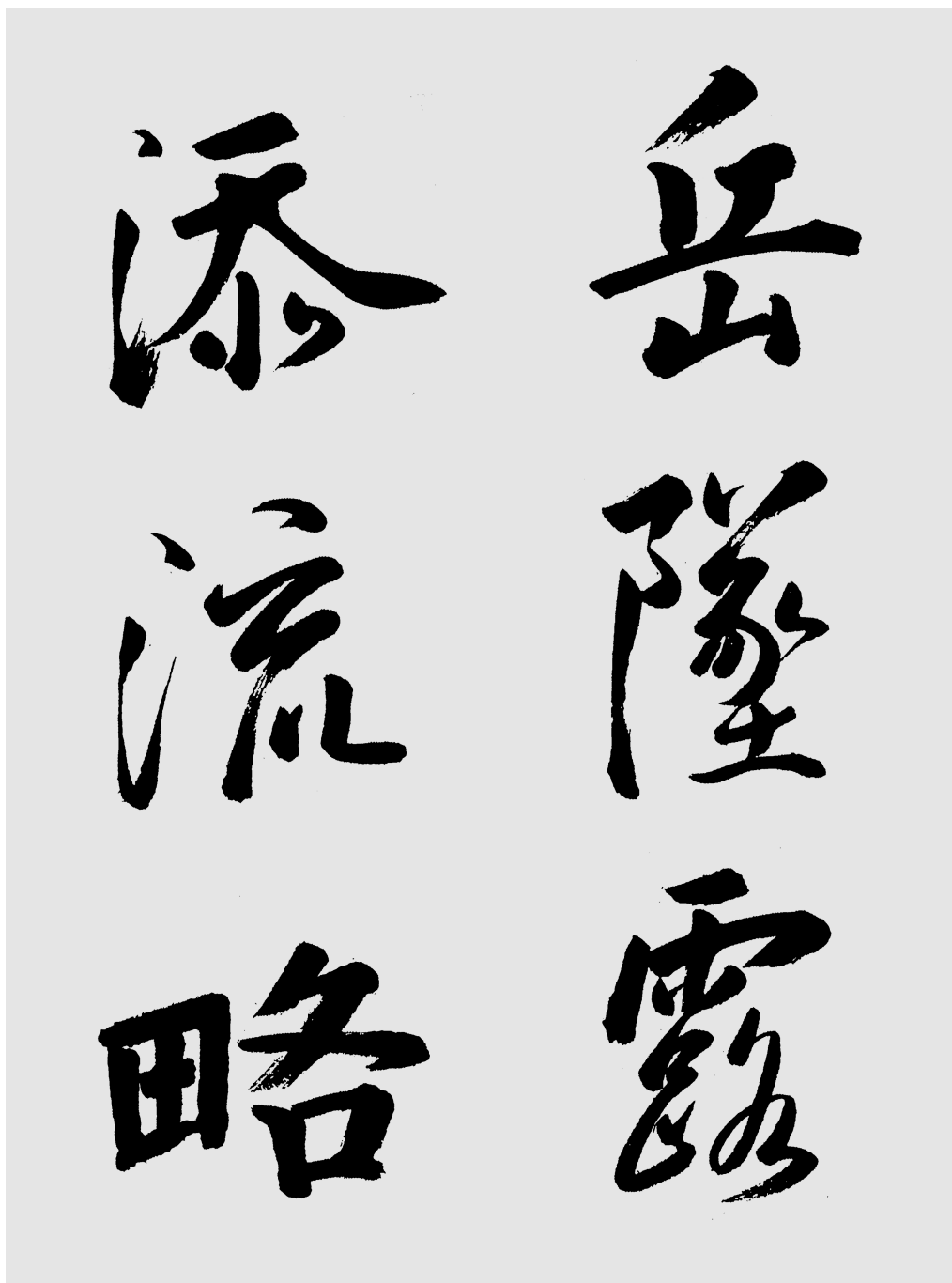
唯聴く 松柏の聲

2月20日必着。入選作のみ発表します。出品券を貼付
手本は卦線入りですが、出品者は卦線のない半紙を使用してください。

行書臨書規定【臨規】（師範・準師範・段位）

集王聖教序

上條信山先生書



一行目は縦長の形でまとめられ、二行目は正方形の形で全体の調和を巧くとっている。

岳―横画は等分割に書く。



隆―偏と旁の間はゆつたりと。旁は同じ幅にまとめる。



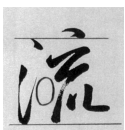
露―雨カラムリを大きく、「路」をやや小さ目に軽く書く。



添―旁の部分をゆつたりと右ハライを長目に。



流―サンスイの点は軽く、偏と旁の間を広くとる。



略―偏と旁の大きさに注意して、やや強目に書く。



岳を（足し）露露をもつて流れに添え、略……。

2月20日必着
出品券を貼付

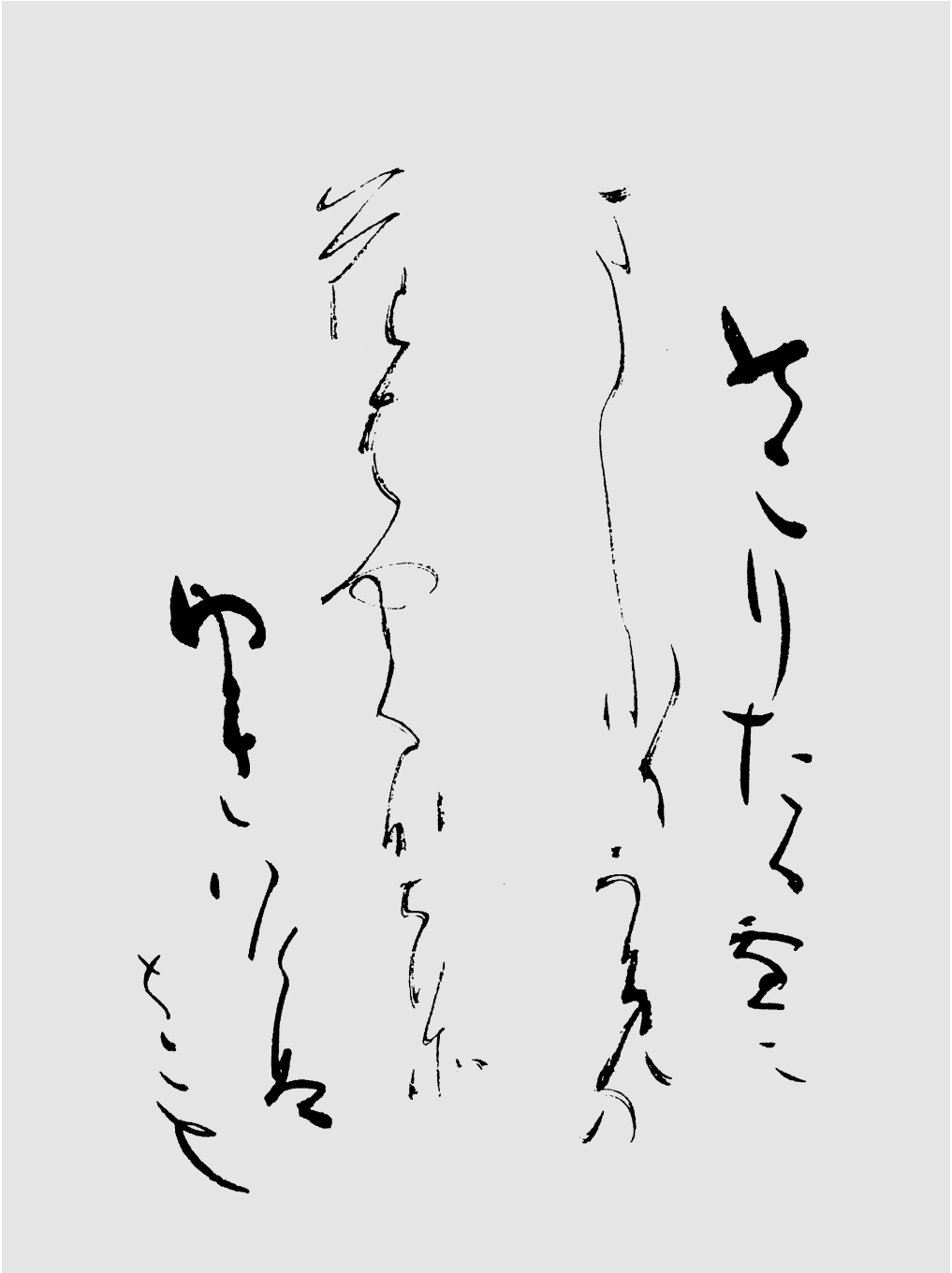
輕塵

塵

「塵」の概形は横画の平行、等間隔。

輕

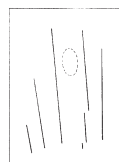
「輕」の車は筆順に注意。旁の縦画は最後に書く。



の（能）こりたる雪に（二）ま（万）じれるうめ（免）の花
は（者）やくな（那）ちりそ（所）ゆきは（八）け（介）ぬとも（毛）

2月20日必着
出品券を貼付

・全体構成は左図の通り。中央部がやや広くなっています。また、左右に墨量を多めに配し、広がりのある文字構成になっています。



【雪】

雪

【やく】

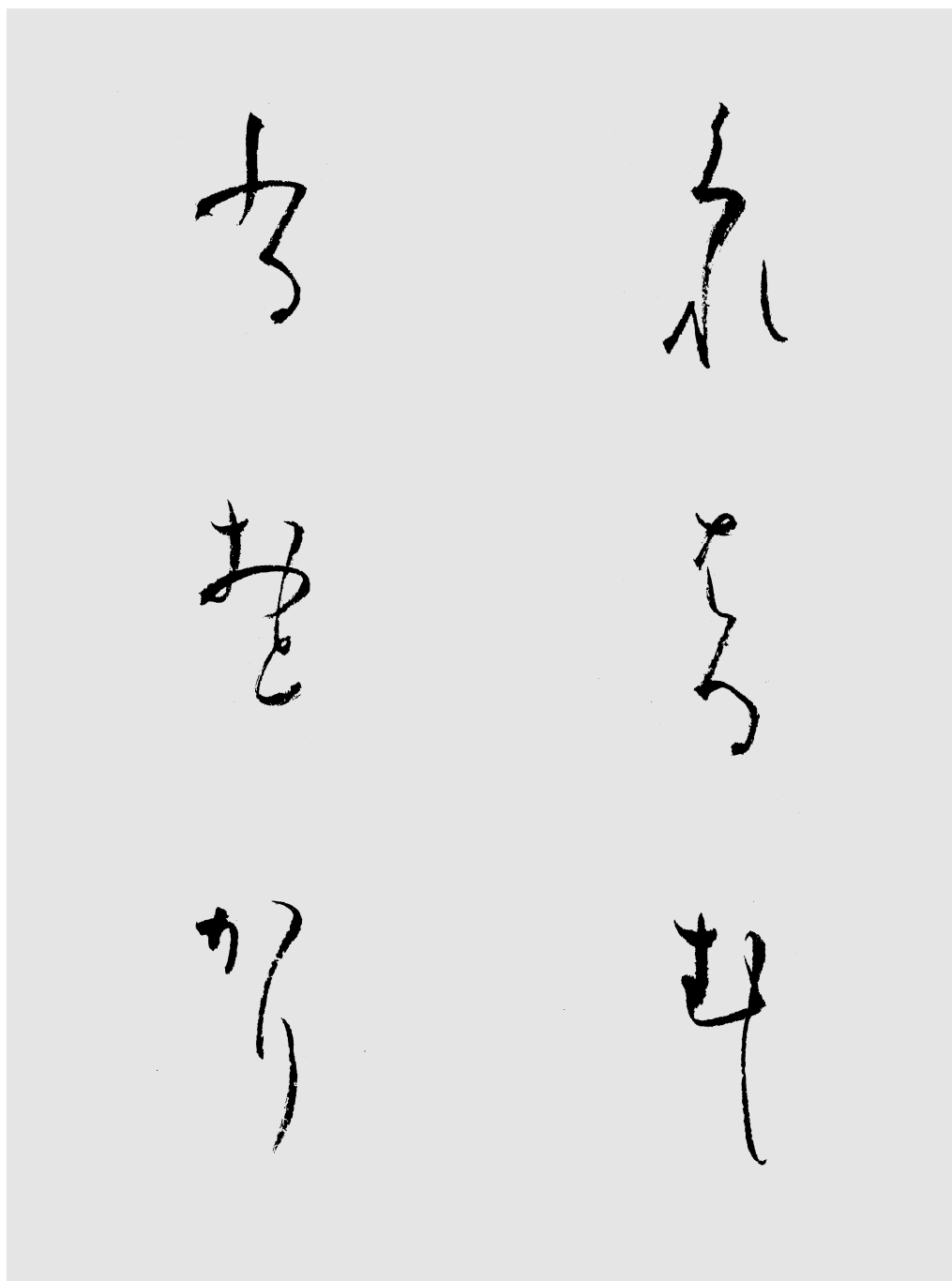
やく

【ゆき】

ゆき

仮名規定【仮規】（級位）

上條信山先生書



「れ」の部分で強く曲げ、
「れ」字の第一画めに
連続する。



「者」の終筆：部は強
く折れ曲がる。「る」
字の始筆はつき返すよ
うに書く。



点を書くため打ちこん
だ筆圧を、そのまま下
方へ流すように連筆す
る。「し」字は右より
となる。



：部で強く折れ曲がり、
直線で一筆に「る」字
の起筆に続く。



点と「と」の第一画を
連続させるのであるが、
細めの直線がよい。



「か」の点からゆるや
かにカーブして「り」
の第一画めに続く。は
りのある曲線にする。



くれ は む ふ お かり

神信の蔭にほう跡

源流二つ彼と此世々に

広めし尊々の仰が

たりめや尊々

神話の蔭にほう跡 源流二つ彼と此世々に
広めしさをしの仰がさらめや尊さを

2月20日必着

出品券を貼付

入選作のみ発表します

・字間のとり方に注意してリズム良く書く。

源 彼 尊

・連綿の部分はのびやかにまとめ軽快さを出す。

りめ

・前回同様漢字の起筆は逆筆を効かせて重厚にする。

千載一遇



千載一遇（袁宏）

・「千」の縦画をやわらかく、「載」の右斜画をきりつと強く、「遇」をゆつたりと運筆する。

仮名条幅随意【条随】

上條 信山 先生 書

入選作のみ発表します

出品券を貼付

千載一遇

やめなむ

ほ（本）の（能）は（ゝ）の（ゝ）と春こそ（所）空に（二）き（支）に（二）け（介）らし天の（能）か（可）ぐ山霞た（多）なび（日）く

・一行目と二行目の行間は苦しくならない程度に近づける。二行目と三行目の間は広くとり、変化を見せる。右側にも余白をとり最終部はゆつたりと。

・「天の（能）か（可）ぐ山」「霞た（多）なび（日）く」はP14を参照。

の鏡は心

中学一年規定 【学毛】

虎井曉鐘先生書

世田冬
界山鑑

中学二・三年規定 【学毛】

内藤望山先生書

好元
子氣

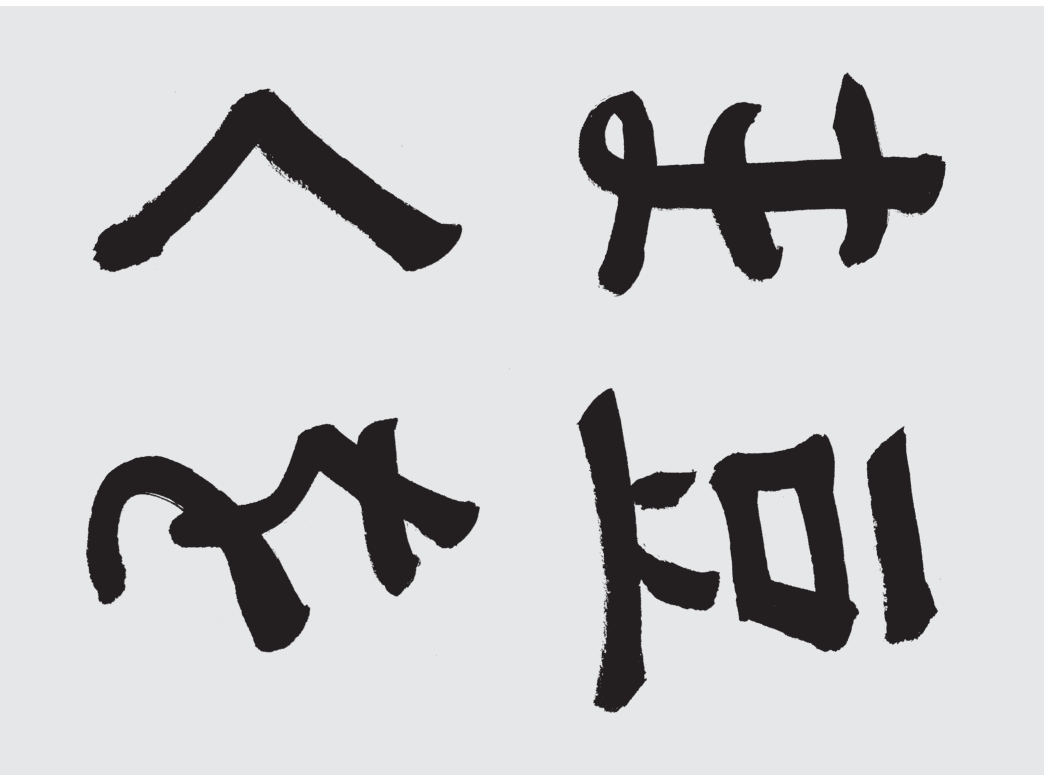
小学五年規定 【学毛】

宮本耕成先生書

見名
學所

小学六年規定 【学毛】

中村巍山先生書



小学三年規定 【学毛】

大澤梢光先生書



小学四年規定 【学毛】

高瀬霞山先生書

静也

小学一年規定【学毛】

西野江月先生書

オース

小学二年規定【学毛】

荻田光山先生書

硬筆規定

一般規定【一硬】(師範・準師範・段位)

上條 信山 先生 書

人間は(ハ)貢献によってのみ(三)報酬を得る。単なる努力そのも(毛)の(能)は(八)賞讃の対象とな(那)るに(三)すぎない。

人間は貢献によつてのみ、報酬を得る。単なる努力そのもは、賞讃の対象となりすぎない。

一般規定【二硬】(級位) (万葉集巻第五 読人知らず)

内藤 望山 先生 書

残りたる雪によりし梅の花はやうな散りそゆきは消ぬし

中学規定【学硬】

山口 啓山 先生 書

ピンと張りつめた空気の中、号砲が鳴りひびき、走者は一斉にスタートした。支部学年氏名

小・中学生随意課題【学随】

左の字句を半紙に書いてください。

表現自由。入選作のみ発表します。出品券を貼付して下さい。

小学 一・二年	小学 三・四年
名	朝
順番	機会
小学 五・六年	中学

手本解説

・基本「惟聴松柏聲」は左図参照。

惟聴松柏聲

・硬筆一般規定(師範・準師範・段位)「貢献」「報酬」「賞讃」は左図参照。

貢献報酬賞讃

・仮名条幅随意「天の(能)か(可)ぐ山」「霞た多(多)なび(目)く」は左図参照。

たのしみ かなた

学生部規定



中学二・三年



中学一年

「冬」は二、三画目の払いを伸び伸びと。銀」は偏と旁の譲り合いにより字形を整える。横画は右上りに。「世」の一字目は肉太く長めに、縦画二本は始筆の位置に気を付ける。「界」はたてきみに。

「書」は横画をつめて書く。二画目が最も長い。「心」は二画目のそり具合で字形が決まる。「鏡」は偏と旁のバランス、偏の横画は右上がりに。

科学の進歩により、深海の
めずらしい生き物が、次々と
発見されている。

名前 支部 年 級段

せつ分には、としの数だけ豆
を食べます。わたしは九こ
弟は五こです。

名前 支部 年 級段

ふ	じ	山
ゆ	き	で
の	ま	っ
の	上	の
の	方	は
の	え	

なまえ 支部 年 級段

※出品券を貼付
して下さい。

一般（師範・準師範・段位）・一般（級位）・中学生はペン使用の
こと（中学生は鉛筆も可）。小学生は鉛筆使用のこと。
作品の大きさ↓たて18cmよこ7cm小一・二課題↓21cmのマス目
の紙を使用する。小三・四・五・六課題↓21cm巾の罫線を引く。

名 見 学 所

小学六年

雪 草 わ

小学四年

ラ イ

小学二年

「名」はタと口がつり合うように。「所」は旁をやや大きめに書く。「見」は目の横画の間を等しく。曲がりを丁寧に。「学」は心と子を書きバランスよく。

「雪」の冠と下部はほぼ二等分される。下部の縦画はがっちり。と。「わ」の一目目は中心より左に長めに引く。「草」は八画目を長くして上部をささえる。

「ラ」の横画はやや右上がりにして平行に。「イ」の二画目接筆は筆先をよく整えてから。「オ」の二画目は中心線より右に。「ン」の二画目は一目目の真下から。

元 気

小学五年

豆 を

小学三年

お と

小学一年

「元」は下方を広くとり字形を安定させる。「気」は気のそりを短かめにし、メをバランスよく組み立てる。「子」は折れからそりへの移りに注意。

「豆」は中心より左右の長さをそろえる。「を」は中心線を生かして、二画目は適度な曲線で長さを同じ。「く」は運筆の方向、折れの角度に気をつける。

「お」の二画目は右上がりにして、二画目はまっすぐにおろし、一画目の右よりで交わる。「と」の曲がりの部分は手首を回さず腕全体で書くように。

古典研究シリーズ

(380)

【古典】

ちようもうりようひ

張猛龍碑

ひいん

(碑陰)

北魏

正光三年(五二二)

今月のテーマ

表現的臨書(A)

中字(四字×十字)

書き方

- ①文字数を間違えないで出品して下さい。
- ②続き文字でなくても構いません。
- ③落款を入れて下さい。
- ④作品の表左下に、支部名と氏名又は号を鉛筆で記入して下さい。そして制作意図も書いて下さい。古典研究の出品券を貼付して下さい。

(編集部)

表現的臨書

(A) 線に主観を加える

〈ねらい〉自己の要求に応ずる線を、古典の形を借りて自在に表現する。

〈学習①〉課題の古典の中から四×十字を選び、写實的臨書をして、その形をしっかりとらえておく。そしてその形を用いて、次のような作者の芸術的意志(表現意志)を次々に加えて、様々な線表現を試みる。

- ① 運筆に変化を与える——(ア)筆圧を変化させる (イ)遅速、緩急をつける (ウ)細太、強弱をつける
- ② 筆の種類を変える——細太、長短、剛柔、竹筆、鶏毛筆、その他自己創案の筆などを使ってみる
- ③ 墨色をさまざまに工夫する——濃墨、淡墨、にじみ、かすれ等を効果的に用いる
- ④ いろいろな用紙を用いる

〈学習②〉右の要素をいろいろとりまぜて、全く独自の新しい線表現を試みる。



〈釈文〉租曹佐・夏萬秋。租曹佐・張衆德。兵曹佐・苗桃符。兵曹佐・夏文標。尚神暉。

上 條 信 山 記 念 展 示 室 展 示 作 品

No.	作品名	制作年		寸法(cm)	主要展覧会
1	不老	昭和57年 (1982)	75歳	69.4×68.4	毎日日本書展100人展
2	孟浩然詩「春暁」	昭和57年 (1982)	75歳	136.6×22.4	第26回朝日二十人展
3	墨魔	昭和57年 (1982)	75歳	90.0×161.8	第34回毎日書道展
4	邀月	昭和60年 (1985)	78歳	135.8×68.4	第2回読売書法展
5	真	昭和60年 (1985)	78歳	109.0×84.6	
6	壮心	昭和62年 (1987)	80歳	81.8×153.2	改組第19回日展
7	芭蕉句	昭和58年 (1983)	76歳	137.0×22.6	第27回朝日二十人展
8	一怒一老	昭和62年 (1987)	80歳	53.2×154.0	
9	心豪	昭和60年 (1985)	78歳	130.0×67.4	書象選抜展
10	大方無隅	昭和57年 (1982)	75歳	70.0×237.0	第44回謙慎展
11	天風拂顔	昭和60年 (1985)	78歳	68.1×67.9	第26回有山社展
12	正岡子規のうた	昭和61年 (1986)	79歳	45.4×68.8	謙慎展
13	唐詩五絶二首	昭和58年 (1983)	76歳	229.5×52.2	
14	自詠詩「茜陵旗 亭雅集 写所懷 以似応試諸子」	昭和58年 (1983)	76歳	各139.0× 25.8	松本個展
15	臨 孔宙碑	昭和58年 (1983)	76歳	227.5×52.8	松本個展
16	良寛のうた	昭和60年 (1985)	78歳	181.4×44.0	巨匠展

松本市美術館便り

上條信山記念展示室 平成二十七年一月六日（火）～五月六日（水祝）

壮心の書 ～ 75～80歳の作品から ～

松本市美術館主催・70歳以上の公募による美術展「第6回老いるほど若くなる」(会期・2/17～3/29)の開催に合わせ、上條信山先生70代後半の作品を中心に展示します。76歳の時、松本での個展により生涯の代表作が数多く生まれたほか、書の国際性について精力的に講演を行うなど、この頃は作家として濃密な時期にありました。歳をものともしない庄巻の大字書をはじめ、たおやかに流れる行草書や仮名の数々。超脱とも言える書境の作から溢れる気、格調を感じ取っていただければ幸いです。



「壮 心」



「天風拂顔」



「大方無隅」

決定！ 平成27年度書象会夏季合宿錬成会



- ◆会 期 8月4日(火)・5日(水)・6日(木)
- ◆会 場 草津温泉「ホテル櫻井」
- ◆定 員 250名（6月より受付開始）
- ◆その他 ホテル内での広い錬成場が得られました。
詳細は5月中旬にお知らせします。

〈研修部〉



お風呂も充実



**いま、上條信山先生の
すべてが甦る！**

張廉卿陵園完成記念DVD（カラー全50分）

師生四代 友好の陵園

- 製作 有限会社 書象
- 脚本・構成 魚住卿山
- 題字 田中節山
- 定価 1,500円
(消費税・送料込み)
- 申し込み先 書象会事務局

**待望の
復 刻**

2001年3月28日、中国湖北省鄂州市に建設中の張廉卿陵園が完成し、書象会員参列のもとに記念式典がおごそかに催された。本巻はこの陵園の完成を記念して、張廉卿、宮島詠士、上條信山、さらに書象会員の師生四代を巡る情誼を描き、信山芸術の真価を伝える感動の記録である。

書き初め講習会

日時 平成二十六年十一月三十日（日）
会場 松本市美術館

今回で四年目となるこの講習会は「書き初め」と題しているものの、実際には半紙から書き初めサイズ、半切四分の一、二分の一、半切とサイズも、また、小学校低学年から高校生まで、と年齢層も広く、今年は総勢五十二名の参加となりました。寺尾碩雲先生と竹内の二人ではとても手が足りず、塚原花瑠先生や鈴木花照先生にもお手伝いいただき、それぞれの課題とする書き初め、競書、古典臨書、創作と様々な分野の講習会となりました。

五校集まった他校の練習方法を聞く高校生、高校生の正確な筆遣いに見入る中学生、いつもとは違った環境で、最初こそ大人しかったものの、すぐに順応して、屈託のない笑顔を浮かべる小学生、そしてそんな小学生に癒されながら予定の二時間は瞬く間に過ぎました。大急ぎで片づけを終えた後、当日が最終日であった『秋山白巖展』をみんなで鑑賞しました。

この『秋山白巖展』は二度、三度と足を運んでも、その都度新たな感動を受けるすばらしい展覧会でした。開催の中心となった松本市美術館の学芸員で、書象会の審査会員である大島皎山先生には、あらためてその労に感謝いたします。その後、信山先生の記念室では、信山先生の揮毫された碑の拓本を鑑賞しましたが、部屋中央に設えられた乾拓を見つけると夢中になって擦っている小学生が何とも微笑ましい光景でした。

また来年、今度はどんな展示になっているのか、そしてどんな講習会なのか楽しみにしております。奮ってのご参加をお待ち申し上げます。

（竹内墨洋 記）



さあ、元気よく！



集中力を高めて



初体験の乾拓



仕上がった作品と共に記念撮影

平成二十六年秋季師範特待生昇格試験合格者

[illegible]

特 待 生

小・中学生準八段に達した者は「特待生試験」合格により八段特待生となる。「8級下」から始め、四十二階級を登りつめた榮譽を讃え、賞状ならびに副賞として墨と楯（左写真）を贈るものである。

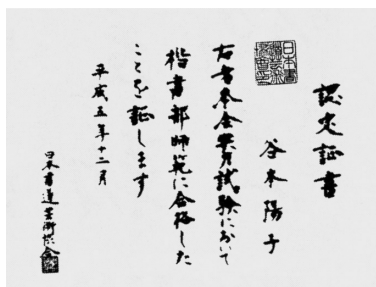


認定証の申込みについて

師範昇格試験において、正師範・師範・準師範に合格し、その認定証を希望される方は、該当各書体の合格年月を記入した申し込み書に費用を添えて書象会本部庶務部までお送り下さい。

尚、お申し込みただいてから認定証の発送までに、若干時間のかかることがございます。ご了承下さい。

- 正師範 五体 五〇、〇〇〇円
- 師 範 一体に付 五、〇〇〇円
- 準師範 一体に付 四、〇〇〇円



看板の頒布のお知らせ

書塾用に看板を用意しております。ご希望の方は左記の要領でお申込み下さい。

◎資格条件

書象誌において、一体でも師範に合格した方。

◎申請料

三万円（送料・税込み）

◎材質・寸法

檜無垢 A タテ六〇cm×ヨコ一五cm×厚さ二cm

B タテ四五cm×ヨコ一三cm×厚さ二cm

※A・B共に貼り囷入り

◎申請方法

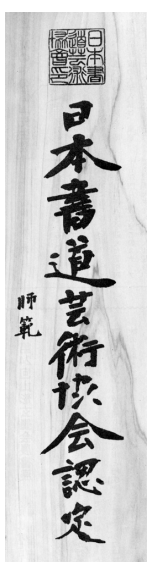
師範合格書体・年月と御希望の寸法A・Bのどちらかを記入して、申請料と共に書象会庶務部まで、現金封筒でお申し込み下さい。

◎お問い合わせ・申請先

〒180-0001 武蔵野市吉祥寺北町四一三一六

書象会 庶務部

☎・FAX 〇四二二一五三一九七四三



昇段級試験特集

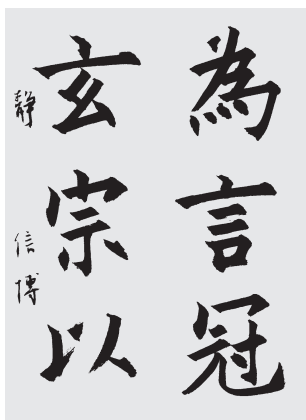
平成二十六年年度秋季昇段級試験の合格作品の
秀作と審査評を掲載いたします。

合格率は、師範59%（受験者二九三）、準師
範58%（同二七四名）、特待生59%（同二五〇名）
でした。

今回の課題では「楷書」と「隷書条幅」の合
格率が高かったのに対し、「仮名」「漢字条幅」
が低い結果となりました。「仮名」は紙面構成
に加え、墨量の変化にも留意することが望まれ
ます。墨の潤渇を表現するためには紙を変える
ことも新たな発見につながります。「漢字条幅」
は大きな筆運びで大胆に書くことが大切ですが、
そのためには墨の濃さについても工夫する必要
があります。また、紙面に適した文字の配置を
心がけることも重要です。
掲載作品を参考に、今後の学習に役立ててく
ださい。

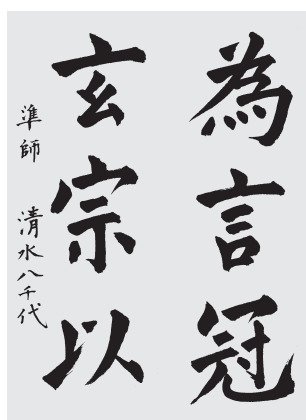
（編集部）

師範 静 来司 信博



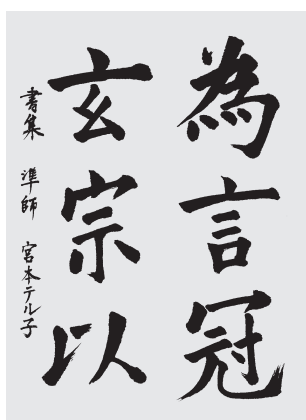
澄みきった
豊かな線質、
執筆・腕法
の高さが伺
える。今後
が楽しみな
期待の新人
である。

師範 暁華 清水八千代



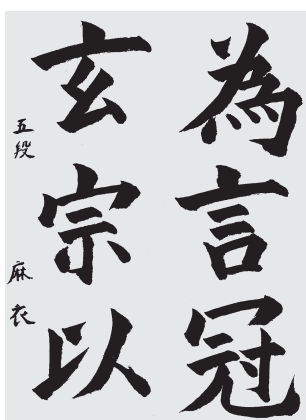
濃墨を力強
く運筆する
力がある。
ハネ・ハラ
イの先まで
細かく配慮
する余裕も
備え、実力
のある新人
だ。

師範 書集 宮本テル子



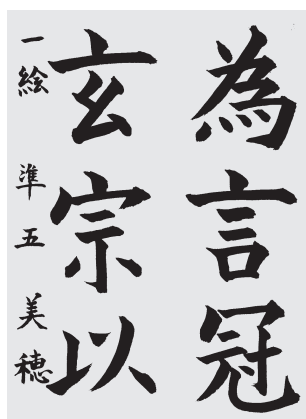
墨が深く滲
透して味わ
い深い作品
だ。落ち着
いた運筆だ
が、切れ味
鋭い面も見
せて、技法
の多彩な所
も感じられ
る。

準師範 綾華 石上 麻衣



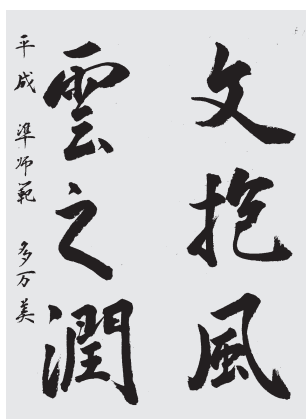
一行目がや
や右寄りに
なつたのが
惜しい。し
かし、力強
く伸びてい
る線は何よ
り魅力的で
若々しい作
品である。

準師範 一絵 斑目 美穂



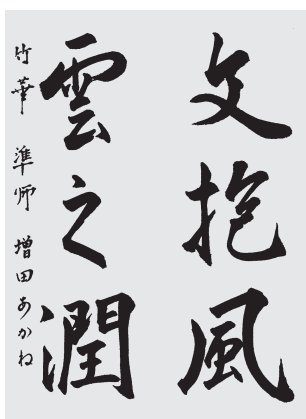
直線的な横
画や、よく
整った結構
は欧法の特
徴を十分に
發揮してい
る。懐が広
く、文字構
造が明るく
清々しい作
品。

師範 平成 橋野多万美



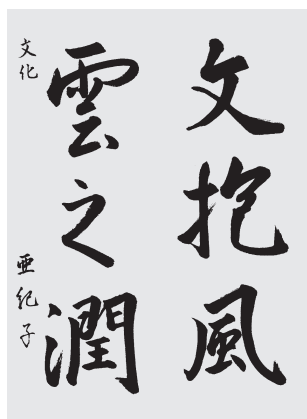
線の細太を
巧みに表現
している。
運筆のリズ
ムも自然で、
流れるよう
な趣が心地
良い。

師範 竹華 増田あかね



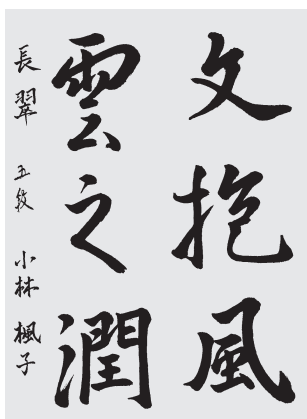
墨量豊かで
力強い線質
が見事。章
法も申し分
ない。落款
のおさめ方
も良く、そ
の力量が十
分に発揮さ
れた作。

師範 文化 山本亜紀子



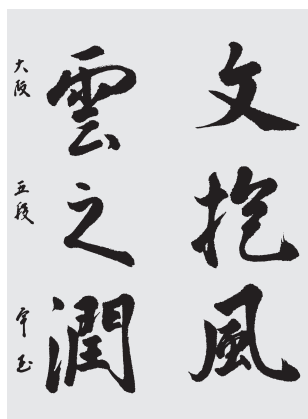
筆先の弾力を生かした伸びやかな線質が秀逸。筆使いの巧みさに加え、全体のとめ方も良い。

準師範 長翠 小林 楓子



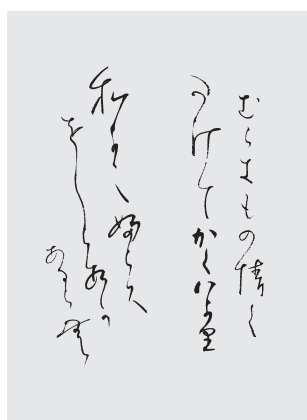
素直な書きぶりで、無理のない運筆が魅力的。また、落款の全ての文字に配慮が行き届き、立派に仕上がった。

準師範 大阪 進藤 宇玉



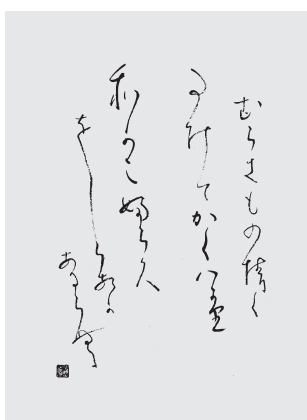
小振りに、しかも品よくまとまっている。また、筆がよく動いていて原帖の特質を捉えた作品である。

師範 楽書 千木良笑実子



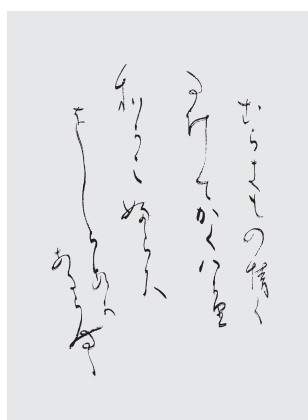
にじみの出る紙に潤い美しく仕上げたのは見事。大胆な筆使いも作品にメリハリをつけ、動きのある秀作となった。

師範 富貴 平野 重子



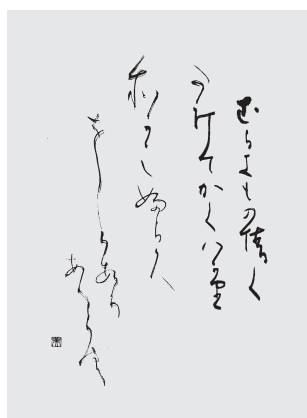
むずかしい料紙にくいこむ様な線質が印象的である。全体のバランスも良く格調が高い。

師範 書之会 堀 成美



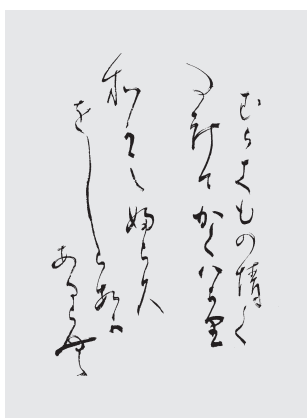
渴筆の美しさ格別である。さわやかで全体感も良く、格調の高い作品となった。

準師範 玄樸 太田 嶺花



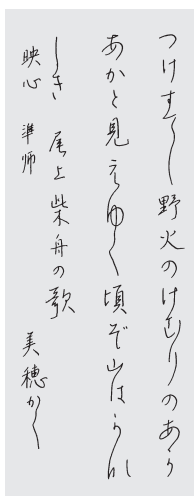
軽快なタッチでリズムミカルに書かれている。渴筆部分に見る柔らかな線質は味わい深い。

準師範 聖 前山 友美



大きな運筆により、線の伸びやかさがいかんなく発揮された。作墨の使い方も工夫が見られる。

師範 映心 斎藤 美穂



文字の大小、字間のとり方に技術の高さを感じる一作。各字のバランスも大変良い。

師範 巍山 齊山 霞舟

つげまゝ 野大のけむりのあつ
あかと見えゆく頃ぞうれ
い、秋の夕ぐれ。 霞舟

慣れた書きぶりで自然にペンが動いている。各行の中心線もすつきり通ってさわやかな秀作となった。

特待生 霞墨 石井 愛莉

遠い山並みに沈む太陽に映
えて、紅葉の赤や黄色が美し
い、秋の夕ぐれ。 霞墨 中二
石井愛莉

文字の書き進め方にリズムが感じられる。普段から沢山字を書いているのである。美しい文字が身についている。

特待生 船橋 菊田 佳鈴

遠い山並みに沈む太陽に映
えて、紅葉の赤や黄色が美し
い、秋の夕ぐれ。 船橋 中三 準八
菊田 佳鈴

字幅を豊かにとり、漢字と仮名の大きさを的確にして調和をはかっている。普段の落ち着いた生活まで評価できる。

特待生 若郷 飛田 まい

遠い山並みに沈む太陽に映
えて、紅葉の赤や黄色が美し
い、秋の夕ぐれ。 若郷 中三 準八
飛田 まい

横画を平らにとり、沈着な形を保っている。文字をていねいに書くという訓練がしつかりできているようだ。

特待生 高社 市川 結衣

重要文
化財 市川 結衣

ゆつくり丁寧に書いて落ちついた作品。転折（折れまがる）の部分で強く安定感をもたせている。

特待生 八潮 斉藤 実里

親しい
友人 八潮 中二 準八 斉藤 実里

伸び伸びとした実にあらかな作品。名前も一点一画丁寧で細部まで注意が行き届いている。

特待生 秀雪 傍島 瑠香

親しい
友人 中一 瑠香

太い線で堂々と書けている。全体のバランスも良く、特に左払いの線が美しく上手に書けた。

特待生 美菜 平 佐知子

重要文
化財 美菜 中三 準八 佐知子

主要な横画（横に引く線）が強く美しく書けているので、全体が生きている。名前のまとめ方も上手い。

特待生 華雪 松井 佑菜

重要文
化財 中三 松井 佑菜

筆使いが巧みでまとめ方もすばらしい。普段の練習の積み重ねが生きた作品に仕上がっている。

師範 笠原



水野 泰恭

師範 大象



新井 雄峰

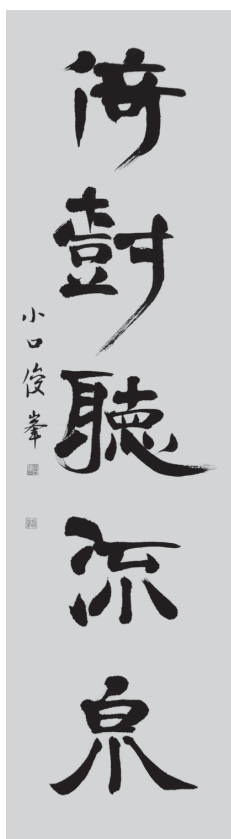
たっぷりした含墨で、のびやかに気分よく書けた。あたたかさとさわやかさを兼ねそなえた立派な作品となった。

師範 柏心



吉池 採舟

師範 松南



小口 俊峯

文字の中の空間が美しくひびき、線も太く力強い。形、線質、全体感いずれも秀逸。格調高い作品に仕上がった。

準師範 須坂



田幸 智峰

準師範 湊



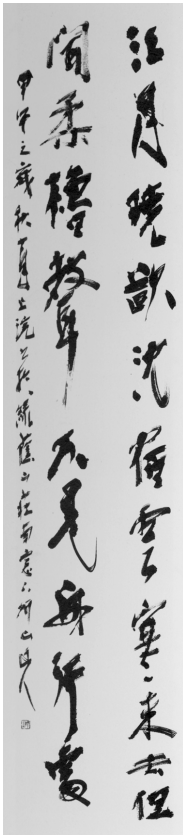
加藤 汀紅

大胆かつ手慣れた筆使いで形と大きさよく紙面に収めることができ、完成度が高く若々しい作品となっている。

水平・平行・等分割の諸原則や隷書の基本に忠実で、力強く切れ味の鋭い線で書かれ、全体感も申し分ない。

第24回 謙慎書道会西部展

会 期 12月9日～12月14日
会 場 岡山県天神山文化プラザ



久保妍山



宮本耕成

第五回 書象大阪支部展

会 期 十一月二十八日～三十日
会 場 誠華堂ギャラリー（大阪市）
主 宰 藤沢珠玉先生

今回の大阪支部展は藤沢珠玉先生の指導活動三十周年として開催いたしました。故上條信山先生の『金石必可穿』、市澤静山先生の『輝』の両色紙に見守られながら、大阪支部全員の書が並びました。

子どもたちは来年のカレンダー色紙に好きな色の絵の具で好きな言葉を書きました。色とりどりの自由な書がずらりと並び圧巻でした。大人はそれぞれの思いを込めた書を持ち寄りました。紙や題材の選び方に各人の個性が表れており、藤沢先生の指導のモットーである《それぞれの個性がそれぞれの輝きを持つ》書を表現していました。

藤沢先生が書かれた『風』や『壺』には表現の自由・線と空間の美を感じ、ますますのご活躍が期待される作品でした。

（井上珠映 記）



藤沢先生を囲んで



児童の作品 カレンダー色紙

書象会通信条幅研究会 平成二十六年年度受賞者

◎最優秀賞

高橋 天翠 小谷 照春 横井 萌玉 西垣 光風
齊藤 汀霄 横川 景城 根岸 鈴華

◎優秀賞

伊藤 西光 島 谿暉 長谷川竹心
加藤 静花 嶋埜 壺玉 初津 壺博

◎皆勤賞

上條 窓苑 宿谷 硯心 市村 桜峯 前田 珠静
高橋 壺登 瀬野 照鈴 今井 華遥 前田 翠湖
立花 壮山 高田 霽楓 岩成 碧舟 増田ソル子
永田 智翠 高橋 白羊 牛丸 峰泉 松尾 詠舟
柳澤 雪葉 竹野 翠紗 宇野 壺裕 松岡 咲僊

◎努力賞

青柳 緑水 塚原 花瑤 河田 邦楓 丸山 孤峰
飯田 天澄 坪田 泰舟 川田 鹿山 水本 静香
井上 雅幸 中島 泰慧 小島 泰泉 峯村 松韻
井上比富美 西川 湧花 小林 天苑 村山 麗恵
今井 春海 野口 翠法 小林 訪泉 茂木 壺梗
伊里 草竹 長谷川石心 斎藤 美楓 山口 智真
上島 壺霄 林 天翔 坂田 良楓 山下 勇
内海 洋楓 針原 伯翠 笹川 静章 山下 春波
遠藤 翠雅 平野 壺桜 佐々木永翠 山根 淑華
大久保昌泉 福井 照雲 塩谷 翠桐 横田 四葉
大柳 壺徑 福山 京江 下平 南岳

◎特別賞

春日 光芯 堀之上峯山 白川 友梅 (本年度最高得点者)

桂川 聴心 三沢 泰仙 都竹 仙華 仙華 最高得点者
加藤 穆舟 三宅 彩影 寺澤 春清 青柳 緑水
上條 泉山 山崎 惜春 戸塚 豊翠
北村 照節 山本 草心 長江 白羽
倉谷 聴月 湯本 香窓 中邑 弦照

※努力賞以上の方、特別表彰の方の表彰は書象会総会、新年会(一月二十五日 十二時より)の席上で行われます。受賞者はかならずご出席下さい。

賞の内規

- ・最優秀賞は一人一回限りとし、以後最優秀賞、優秀賞の受賞資格はなくなる。
- ・優秀賞は一人二回までとする。但し一回の方は、最優秀賞の受賞資格を有する。
- ・最優秀賞、優秀賞、努力賞は、年間皆勤であることを条件とする。
- ・最優秀賞、優秀賞、努力賞には、賞状並びにトロフィー又は副賞が与えられる。

平成二十七年年度 書象会講習会実施計画

平成二十七年年度の講習会・錬成会・講演会は、次のとおりです。ふるってご参加ください。

二月二十二日(日)

実技講習会

「第五十四回書象展の作品をつくろう」

講師 杉山曉雲先生

会場 武蔵野商工会議所

四月中旬予定

書道講演会(美術館見学)

講師 美術館学芸員

会場 五島美術館(予定)

四月開催予定

かな会講習会

講師 内藤望山先生

会場 未定

六月十四日(日)

支部長講習会

講師 未定

会場 国立新美術館

六月中旬予定

実技講習会「信山流の書法」

講師 高田墨山先生

会場 国立新美術館

八月四日(火)～六日(木)

夏季合宿錬成会

会場 群馬県草津温泉「ホテル櫻井」

十一月予定

講習会「文房四宝」

講師 鷺毛堂

会場 未定

「地区講習会」「支部強化錬成会」など、地区や支部長、会員の皆様のご要望にこたえるべく努めますので、係までご相談ください。ようお願いします。なお右記日程会場は変更する場合がございます。また、各研修会の詳細については、書象誌、ホームページ、支部長宛文書等でもお知らせする予定です。お問い合わせは本部事務局までお願いします。

研修部



△漢字条幅▽

が冴える秀作。

泰

瑶

秀

琴

京

勇

花

八

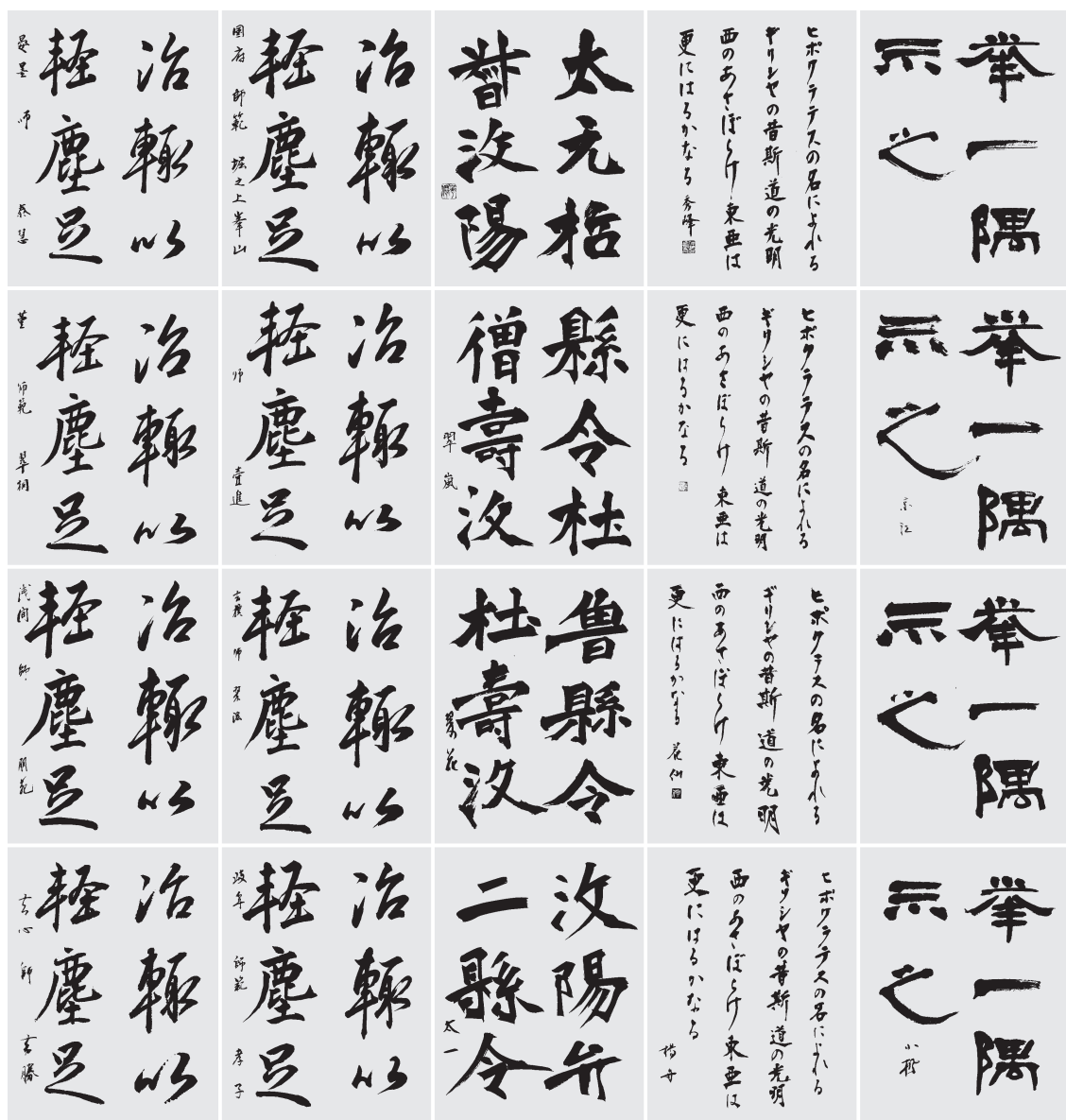
緑

谿

照

△通信

— 29 —



基本課題

評 内藤 望山

素 舟 伸びやかで、余韻のある線。技群に美しい。
京 江 実にダイナミックで思い切った秀作。
和 光 墨跡あざやかで、気持のよい快作。
小 楓 余白の生かし方が見事。重厚さもあり佳。

研究課題

評 内藤 望山

秀 峰 字形、位置、大きさ、太さ共によし。力強い。
鶴 苑 美しい墨色が光る。大小のリズム快調。
花 仙 線の強さ深さが抜群の作。切れ味鋭い。
楊 舟 太めの線で迫力あり。直筆で明るい作。

古典研究

評 久保 妍山

花 仙 墨量豊かな重厚な線で仕上げられた作。
翠 嵐 全体感よくまとめた。息の長い線である。
翠 花 スピード感ある線でシャープに出来た。
太 一 切れ味の鋭い線で引きしまった形の作。

師範部

△楷書△

評 荻田 光山

峯 山 起筆から終筆まで揺るぎない筆運び。
壺 進 まろやかな筆線で、全体観も大佳。
翠 法 習書の成果が見事に凝縮された秀作。
孝 子 引き締まった結体と伸びやかさが印象的。
泰 慧 やや小ぶりだが、瀟洒で、艶のある佳作。
朋 桐 懸腕の動きよく、一字一字が雄大な作。
玄 苑 同太で一貫して書かれた見事な作。
勝 墨を上手にあつかい、運筆意識も大佳。



- 採 舟 落款を含めた全体のバランスが見事な作。
- 照 春 筆の運びによって生まれる行意が印象的。
- 節 華 線に甘さがあり、一字一字の結体もよし。
- 柏 園 どの字にもスキがなく、見事な調和。
- 静 翠 線に勢いと伸びやかさがあり、軽やか。
- 西 光 含墨よく、重厚な仕上がりが印象的な作。
- 康 絹 筆が立つて、くい込む強さを感じる作。
- 清 香 含墨、全体観、字の構造、いずれも大佳。
- △仮 名△ 評 宮本 耕成
- 翠 山 墨色の変化が効果的でとても流麗な作。
- 湖 亭 含墨豊かに仕上げ、重厚な線も魅力的。
- 統 華 文字に大小長短をつけ、大胆な構成が良。
- 華 英 字形が整っており、丁寧に書かれている。
- 美 砂 基本に忠実で線に伸びやかさのある作品。
- 涼 華 切れのある鋭い線で、形も整っている。
- 悠 翠 線に冴えがあり、渴筆も見事である。
- 朗 仙 淡墨で美しく書かれており格調高い。
- 泉 山 軽快なタッチで、スピード感のある佳作。
- 涛 仙 澄み切った線、大胆な運筆で秀作。
- 千 晶 動きのある線で、明るく仕上っている。
- よ ず み 線に潤渴、細太の変化がつき見事。

松本城

天守
中三 清太

松本城

天守
中二 楓子

時代の流れ

中一 杏佳

時代の流れ

中一 小桃 胡桃

図書

委員
小六 脇田彩響

図書

委員
小六 高野 桜

急な坂道

小五 宮川 藍理

急な坂道

五年 澄 玲

花屋

さん
李光 四年 準五 七くら

花屋

さん
小四 浜田 幸那

いそぎ足

伊奈 小三 和奏

いそぎ足

小三 怜 奈

てぶくろ

小二 藤原 悠聖

てぶくろ

小二 仲宗根 つばき

やま

小一 みつひさ

やま

小二 りこ

最高

中三 小淵 千里

初歩

六年 久志 智子

帰

小四 戸田 陽菜

火

二年 もも

清 太 立派な筆法で重厚さもあり見事。

楓 子 正しい基本をふまえ、堂々と書けた。

杏 佳 文字の形をしっかりと捉え、全体感も佳。

胡 桃 書いている姿が目につく程。まじめだ。

脇田彩響 紙一杯に正確で立派だ。名前も上手。

高野 桜 まじめに、きちんと書き、すばらしい作。

宮川藍理 美しい線、正しい形で、きれいに書けた。

澄 玲 筆の入れ方が正しく、字形も見事。

さくら 太い線で、思い切り元気にかけた。

浜田幸那 文字の形が正しく、大変りっぱに書けた。

和 奏 力強い線で、どうとかけた。

怜 奈 すみをたつぷりつけて四字のまとめが秀。

悠 聖 筆づかいがしつかりとして、じょうず。

つばき どつしりとして、かわいらしい作。

みつひさ かみ一ぱいに、力ぶよくかけた。

り こ ていねいに、かたちよくかけた。

半紙随意

評 恩田 静月

小淵千里 行書の筆法を得て見事です。

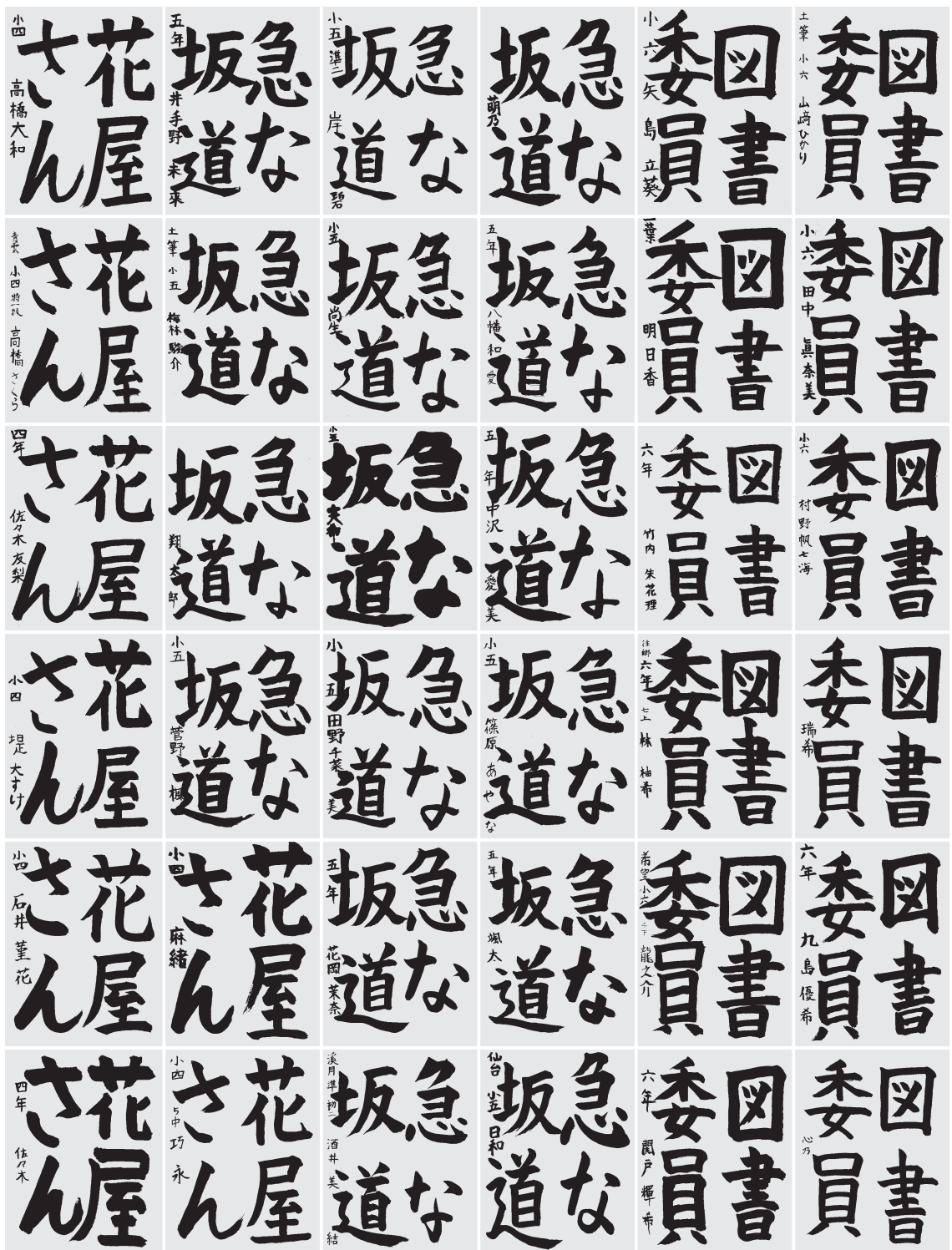
久志智子 正しい筆使いで書き上げた作品です。

戸田陽菜 美しい線で名前もしっかり書いてます。

も も 形もよく、たいへんよく書けてます。

このページに掲載された人には書象会より記念の筆をさし上げます。

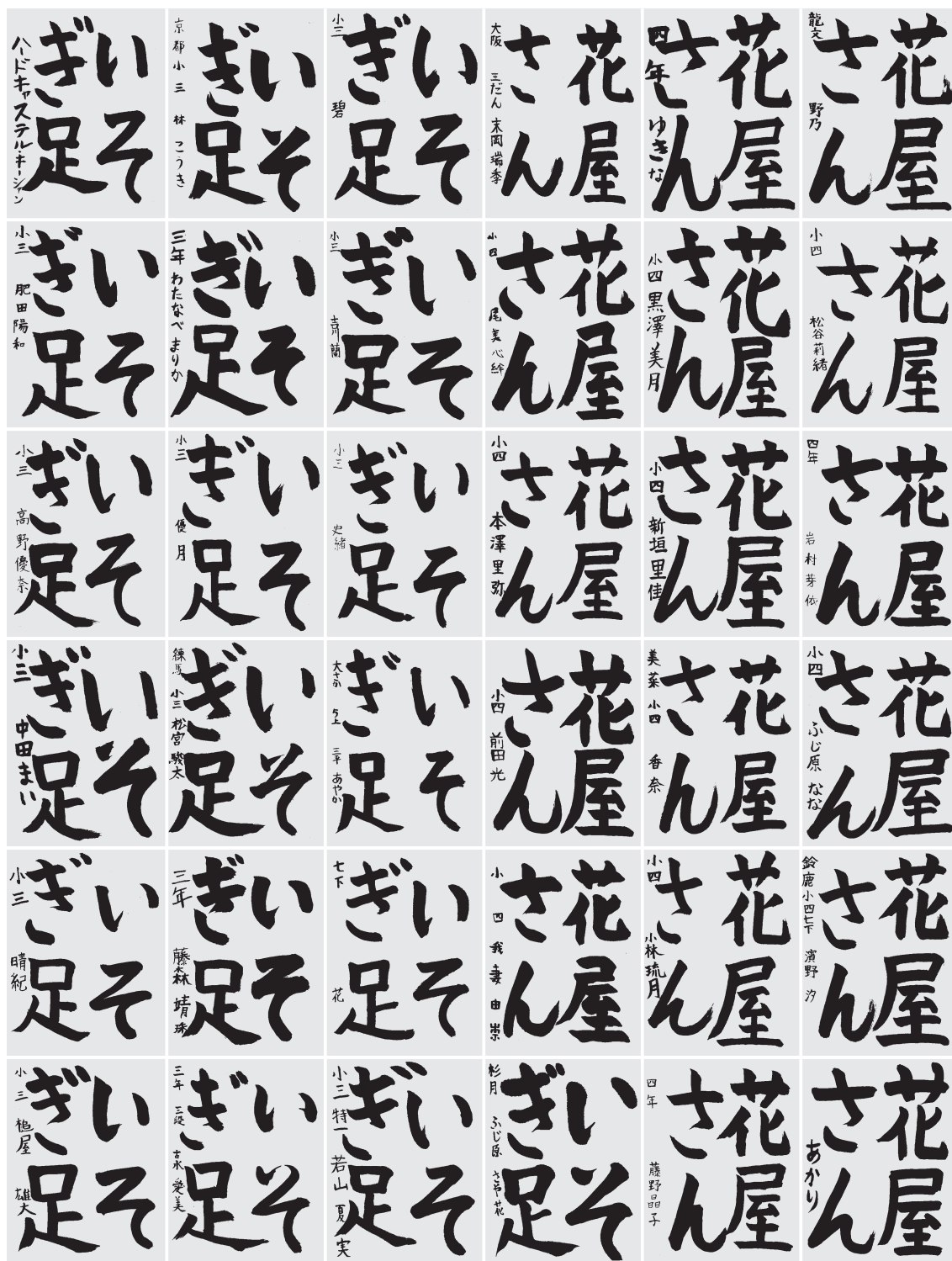
〔行書〕										〔段位〕										〔級位〕										〔仮名〕																																																																																																																																																																									
暁月 紫丸山 華碩子										柏心 典丸 宇田川 桜子										優生 本郷 優花										書之 永田 真佑美										杉 礼山 成子										一絵 山田 雪										横二 満 太一										若竹 高橋										八南 佐藤 美恵子										船橋 飯田 裕子																																																																																																													
水代 柴田 友菜										四谷 加容 子脇										芙蓉 真知 脇紀										若松 谷由 紀碩										柏心 丸山 夢子										長翠 小林 夢子										皓花 岡田 みつる										竹華 江口 佳織										有象 恵美子										八潮 美優										優生 宇田川 桜子										信大 伊藤 均穂										玄心 佳穂 嵐舞										石峯 翠 佐藤										茅野 小平 濱子										八戸 幸香										静恵 恵美子										倭宏 佐藤 美恵子										有象 佐藤 美果										游墨 禮光									



朝日 久喜 北府 正桂 青雲 須坂 墨洋 若葉 有象 名東 土筆 源創 溪月 湊 有虹 りん 華雪 仙台 玄樸 硯扇 千曲 平成 光丘 書之 希望 往郷 宝春 一葉 硯扇 若松 千曲 龍文 大象 中野 土筆

佐々木 堤 大すけ 佐々木 高橋 巧 麻 菅野 翔 梅林 井手 酒井 花岡 田野 山一 岸 日 城戸 篠原 中沢 八幡 真嶋 関戸 龍之 林 竹内 堀口 矢島 心 乃 野 帆七海 田中 山崎

佐々木 堤 大すけ 佐々木 高橋 巧 麻 菅野 翔 梅林 井手 酒井 花岡 田野 山一 岸 日 城戸 篠原 中沢 八幡 真嶋 関戸 龍之 林 竹内 堀口 矢島 心 乃 野 帆七海 田中 山崎



虹苑	蓮心	凛和	秀雪	横二	小光	湊	練馬	峰	大田	京都	名東	石峯	大阪	華雪	玄黙	瑞祥	杉月	長寿	志摩	華雪	若竹	大阪	書之	竹華	美菜	有穂	茅野	山愛	松戸	鈴鹿	右文	皓花	秀雪	龍文
植屋	晴	中田	高野	肥田	古水	藤森	松宮	高橋	まり	林	若山	花	岡村	史緒	吉川	碧	ふじ原	我妻	前田	本澤	尾美	末岡	藤野	小林	香	新垣	黒澤	滑川	林田	濱野	ふじ原	岩村	松谷	河合
雄大	まい	優奈	陽和	陽和	愛美	靖珠	駿太	優月	か	こうき	夏実	あや	史緒	蘭	蘭	花	崇	光	里弥	心絆	瑞季	晶子	琉月	奈	里佳	美月	礼菜	あかり	汐	芽依	莉緒	野乃		

一ね やま こんどうかな	小一 やま 小なみ	番 小二 くろぶ 由佳	小二 くろぶ 桃とう ちり	小二 くろぶ すず	三年 ぎい 足そ 木村穂乃香
リヤ やま うもん りん	小一 やま りんた	小二 くろぶ 野しろ み月	小三 くろぶ みか 口みや介	小二 くろぶ 高須大 知	小三 ぎい 足そ たぐみ
ぬり やま まなみ	小三 やま はるひ	小二 くろぶ 小ばた みはる	小三 くろぶ ま子	小二 くろぶ 東川リは	三年 ぎい 足そ 正水月
よしの やま	小一 やま うえのうた	小二 くろぶ きま わたしのすけ	二年 くろぶ 行たけ すずの	小三 くろぶ 直歩	小三 くろぶ りの
一ね やま こしゆめ	小一 やま ひかり	小一 やま よしだ まお	二年 くろぶ 大坪文 流	小三 くろぶ りやうた	小三 くろぶ 小ばや しゅうひ
ゆう やま	小一 やま 白井あやめ	小一 やま こぶき みちる	小三 くろぶ 小間 ちん太	小三 くろぶ 2下あ んな	小三 くろぶ 立田のり

琥山 平垣 ゆう	知床 濱崎 佳志乃	練馬 みなみ	龍文 駒ヶ嶺 凛	杉月 かん	好野 白井あやめ	光丘 齊藤ひかり	中央 うえのうた	芙二 清水陽 妃	蔵 りんた	華雪 山田小なみ	綾華 こぶちみちる	霞墨 よしだまお	【小二】	妻科 寺さ わ蓮之介	飯山 小ばた みはる	優生 野しろ な月	一葉 井上由 佳	葉月 小間友 太	皓花 大坪文 流	三池 行たけ すずの	珠紅 ま子	茜 坂口雅 佳	倭悠 佐とう 万り子	珠悠 あん	芙二 矢野遼 太	華雪 堀内真 歩	みな 東川り ほ	名東 高須大 知	月 下木原 すず	高風 立田み ひろ	竹華 こうへい	光丘 滝田の り	【小二】	東陽 水月	山愛 木村穂 乃香	純心 たくみ
----------------	-----------------	-----------	----------------	----------	-------------	-------------	-------------	----------------	----------	-------------	--------------	-------------	------	------------------	------------------	-----------------	----------------	----------------	----------------	------------------	----------	---------------	------------------	----------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	-----------------	------------	----------------	------	----------	-----------------	-----------

さへなみの土賀の大わた
よむむとも昔の人になつたも
急進はめわし

勇ましさとは、困難な事に
出会つても、くじけずに全
力を尽すことだ。
華雪支那中三
松井佐菜 著

学校の図書館に、エジプトの象形文字について書いた本があります。

大泉 寛三 著 六 歳 級
名 前 田中万祐子

学校の図書館にエジプト
の象形文字について書いた
本があります。

父のふる里にかゝつた時
雪でまゝ、白な日本アルプス
が見えました。

龍文 著 四年 津二編
名刺 小川みおと

あ	口	人
り	や	の
ま	目	か
す	、	ら
。	手	だ
こから第ニ手まで	や	に
手しまゆい	足	は
が		

あ	口	人
り	や	の
ま	目	か
す	、	ら
。	手	だ
なまはるごころを なまはるごころを	や	に
二 三 下	足	は
か	か	、

学校の図書館に、エジプト
の象形文字について書いた
本があります。

父のふる里にかえった時
雪でまっ白な日本アルプス
が見えました。

伊奈三特ノ
吉橋優香

大坂 聖花 瑤 正桂 山愛 愛心 土筆

【中学】

玄樸	南	紗英
晴美	梨	奈
有穂	藤尾	慈恩

蓮田 大反

美菜 池田 華音
玄耀 西田 光孝
【小五・六】
玄黙 廣田あかり
【小一・二】
虹友
サン
杉

— 38 —

バーコード出品券の使用について

2月号の課題より、一般部の出品および小・中学部の「随意」・「その他」への出品には、バーコード出品券が必要となります。

コピーしたバーコード用紙を
点線に沿って切り取ります。

出品する課題に○をつけ、
段級位を記入します。
(小・中学部は学年も)

これまで通り作品の左下に
貼ってください。

1部門につき1枚のバーコード出品券が
必要となります。

バーコード化に伴い、これまで競書成績ページに印刷されていた出品券は廃止となります。

バーコード出品券と使い方のご案内は、本誌に同封されています。初回登録締め切り日までにお申し込みいただいたのに、バーコード出品券が封入されていなかった方は、本部までご連絡ください。

また、支部の先生方には、小・中学部審査用の出品目録も同封させていただきましたので、併せてご確認くださいませ。

詳しい使い方につきましては、同封の「バーコード出品券の使い方」に掲載していますので、ご一読くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

書道教室紹介ページ申込みについて

書象会ホームページでは書象会の活動や上條信山先生の紹介、書象誌に関することや展覧会の案内に加え、書道を習いたい人向けの『書道教室紹介』のページを掲載しております。

- 1 申込方法 支部紹介掲載ご希望の先生は、ホームページ掲載登録用紙を書象会本部迄ご請求ください。
登録用紙が届き次第、支部紹介登録用紙【A】もしくは支部紹介登録用紙【B】のいずれかを選び、書象会本部までご返送ください。
申込用紙の送付と費用振込の確認完了次第、順次ホームページに掲載いたします。
- 2 掲載内容 支部紹介登録用紙【A】
教室名 指導者名 所在地 最寄り駅 連絡先 稽古日 月謝 指導者の紹介の8項目を掲載します。
また「教室のPR」と「支部長先生ホームページアドレス」を掲載します。
支部紹介登録用紙【B】
教室名 指導者名 所在地 最寄り駅 連絡先 稽古日 月謝 指導者の紹介の8項目を掲載します。
- 3 年間登録料 支部紹介登録用紙【A】→ 年間2,000円
支部紹介登録用紙【B】→ 年間1,000円

※書象会ホームページの書道教室紹介ページに関するお問い合わせ等は、書象会本部までお願いいたします。

書象会ホームページ「書道教室紹介」はこのアドレスでご確認ください。

shoshou.com

で今すぐクリック

書象会便り

◆第77回謹慎書道会展添削会

標記の第二回添削会が一月十二日(㊟)武蔵野スイングホールにおいて開催されました。当番審査員の先生方から一点一点に丁寧な諸注意や添削指導が行われました。二月八日(㊟)の作品提出には努力作品が出品できるように頑張りましょう。

◆平成二十七年度理事会

一月十二日(㊟)午後四時から武蔵野スイングホールにおいて、平成二十六年度事業報告ならびに決算報告、平成二十七年事業計画ならびに予算案等が、協議の上、承認されました。

《書展予告》

☆第34回世田谷の書展

会期 一月六日(㊟)～二十一日(㊟)
会場 世田谷文学館(京王線荏荏花公園駅南口徒歩五分)
出品者 竹内青紗(本会関係)

☆衆墨展

会期 二月十四日(㊟)～十七日(㊟)
会場 全労済会館スペースゼロ(新宿駅南口徒歩五分)
主宰 高田墨山先生

☆第22回神奈川県代表書家展

会期 二月十九日(㊟)～二十五日(㊟)
会場 守玄齋(ゴールデン文具内)・横浜市中区桜木町一ー一
出品者 石丸曉風(本会関係)

《書展報告》

☆第64回福井書法展

会期 十二月十九日(金)～二十一日(㊟)
会場 福井県立美術館
本会関係者
《特別部門》特別賞 齊藤祥仙
出品 長谷川清風
《一科》特選 中本裕子
秀作 北川高月

《二科》特選 入選 谷川裕香
秀作 武井晴美 服部佐和子
入選 佐孝美也子 中本まさみ

《審査員》特別部門 山田航大 山田真菜
一科 畑中高山 北藤煌香 山田白葉

二科 畑中高山 北藤煌香 山田白葉

実技講習会

「第五十四回書象展の作品を作ろう」

日時 二月二十二日(日)
午前十時～午後四時

会場 武蔵野商工会議所

講師 武蔵野市吉祥寺本町一丁目十一七
杉山曉雲先生

会費 三千円

申込 (当日会場でお支払いください。)
書象会本部までお早めにお申込み
ください。

☎〇四二二(五三) 九七四三
(研修部)

氏名

発行人 (有) 書象
代表 上 條 貞 子

郵便番号 180-0001 東京都武蔵野市吉祥寺北町四一三六
振替口座 〇〇一九〇一七二五六九一
振替名義 (有) 書象
印刷所 (株) 高 千 穂 印刷 所